

囲いやま森の会 観察記録

2008.9.9 野口 功

日 時: 2008.8.2 (土) 10~12時 天気: 晴

記録・写真: 山田幸子

「さあ一、写真を撮りに行こう」家事を手早く済ませ、自転車で囲いやまに向かいます。怪しい人と思われないように、わざとゆっくり腕章を巻き、森に入ります。毎年繰り返される季節の移り変わりですが、私にとってこの夏は、突然現れたように感じます。森は夏・夏・夏、夏一色です。生命力あふれるこの季節は、時には眩しすぎて、目を閉じてしまいたくなる瞬間があります。森の中でゆっくり身体と心を休めるのも、時には必要ですね。木々の緑を通して、木漏れ日が優しく影を落としています。夏を楽しめる心をもちたいと、ふと思いながらの観察になりました。

- 1)スケバハゴロモの幼虫が、おどけたポーズで現れました。尾の先の白い毛が楽しいです。若い茎に白いろうを分泌して群集しています。この尾の端の白い糸状のロウ物質があるために、アリなどの他の虫が近寄りにくいといわれていますが、何ともユニークな姿です。成虫はさまざまな植物の汁を吸います。ハゴロモの仲間には、アオバハゴロモ・ベッコウハゴロモなどがあります。幼虫は姿が似ています。実は、私もだまされました。このスケバハゴロモの幼虫を、てっきりアオバハゴロモの幼虫と思っていた。
- 2)カニグモの仲間が観察できました。ふつうに見られるヤミイロカニグモに似ていますが、素人の私は同定できませんので、仲間としました。といえば、あやふやな物は皆（何々の仲間）にしています。仲間がやけに多い観察記録でごめんなさい。お詫びに、クモの豆知識を調べました。クモは日本で1500種います。節足動物で、足は8本、眼は8個。体は頭胸部、腹部の2つ。ちなみに、昆虫は3つ、ダニは1つです。クモはかみついて獲物をマヒさせ、吸い込みます。消化できないものは、残します。囲いやまでは他にオオシロカネグモ・ゴミグモ・オナガグモ・クサグモ・イオウイロハシリグモ・ウズグモ・ジョロウグモなど観察できます。といえば、ジョロウグモが少し大きくなっていました。きれいな模様も見え始めました。
- 3)ヒルガオが、可愛い花を咲かせています。強い日射しの昼間でも、華奢な花を咲かせています。ヒルガオのピンク・ツユクサの青・キクイモの黄色と、囲いやまの緑に映えています。
- 4)スズメノカタビラは、明治以降の帰化植物といわれています。道端によく生えています。ヒゲ根が発達していて、ふみつけられても元気です。カタビラは一重の衣のことです。小さい穂の形を例えたとのことです。
- 5)ヤブガラシが元気です。木や草の上に覆い被さるように、繁っています。ヤブガラシにくる虫を調べてみました。花には、ジャコウアゲハ・アゲハ・キアゲハ・アオスジアゲハ・マメコガネ・コアオハナムグリ・ベッコウバチ・ジガバチ・クロスズメバチ・ハラナガツチバチ・トックリバチなどがきます。葉には、スズメガの幼虫などがきます。茎には、ハムシの仲間やカミキリムシの仲間などがきます。ゆっくり観察すると、たくさんの虫を見ることができそうですね。

開花植物

木本 アカメガシワなど

草本 ノゲシ・オニタビラコ・ハキダメギク・オオイヌノフグリ・オオバコ・ヒルガオ・ツユクサ・スズメノカタビラ・イヌホオズキ・カラスウリ・ヒメジョオン・キクイモ・ヤブガラシ・ミズヒキ・ソクズ・ヤブランなど

鳥 コジュケイ・ヒヨドリ・ハシブトガラスなど

昆虫 クロウリハムシ・ナミテントウ・マメコガネ・ザトウムシ・シデムシ・ダンゴムシ・ゴミムシ・ハサミムシ・ミスジマイマイ・アオバハゴロモ・アオバハゴロモの幼虫・スケバハゴロモの幼虫・ヤブキリの仲間・キンバエの仲間・ヤマトシジミ・ダイヨウセセリ・モンシロチョウ・アゲハチョウ・キタテハ・ヒカゲチョウの仲間・スズメバチなど

キノコ カワラタケ・ベッコウタケ・カワリハツ・クサハツ・トキイロヒラタケ・ツヤウチワタケなど

クモ オオシロカネグモ・オナガグモ・ゴミグモ・クサグモ・ジョロウグモ・カニグモの仲間など

囲いやまの森

2008.8.2(土) 晴 山田幸子
立秋：暦の上では秋になりますが、残暑が厳しく、最も暑い時期です。
この日(8月7日頃)から「残暑お見舞い」の挨拶文となり、高校野球が始まり、電力需要がピークになります。森の中は緑が濃く、夏を楽しみましょう！

